

聖書における信仰からの離脱に関する包括的な研究

信仰から離れる、あるいは背教するという概念は、聖書の中心的なテーマであり、意図的な拒絶、徐々に信仰を放棄すること、あるいは霊的な後退によって神への信仰から離れる行為を指します。本書は、原語、聖書の例、特徴、結果、そして回復への希望を統合し、背教について徹底的に探求します。コリントの信徒への手紙一 5 章、マタイによる福音書 15～16 章、ユダの手紙、「人の中に入る七つの霊」、王国のたとえ話、犬が自分の吐いた物に戻ることをわざと、偽善者、偽教師、反キリスト、その他の聖句からの洞察が含まれています。ある章では、真理の霊（聖霊）と誤りの霊（悪霊の影響）を区別し、反キリストがもたらす具体的な脅威を含め、背教を防ぐ、あるいは促進する上でのそれぞれの役割を示します。本書は、教会に所属しているからといって信仰から離れることがないわけではないことを強調し、信仰共同体への単なる所属や参加が信仰の堅持を保証するものではないことを明らかにします。永遠の救いに関する神学的議論は、「正しい教えとイエスの教えに適切に従うこと」という枠組みで捉えられ、背教との関連性は聖書本文のみを用いて分析・批判され、文脈の正確性を確保し、外部の意見を排除する。すべての聖句は、英語標準訳（ESV）を用いて聖書の文脈における正確性を検証する。

1. 定義と原語の用語

背教とは、神への信仰から意図的に、あるいは徐々に離れていくことを指し、積極的な反逆と消極的な漂流の両方を含みます。聖書の原語は、その意味を明確にしています。

- ヘブライ語（旧約聖書）：

- מְשֻׁבָּה (meshuvah): 「向きを変える」という意味の שׁוּב (shuv) に由来し、「背教」または「背信」と訳されます。エレミヤ書 3 章 6-10 節では、イスラエルの不貞について次のように述べられています。「不誠実なイスラエルよ、あなたがたは彼女が何をしたか見たか。彼女は高い丘や青々とした木々の下に登り、そこで淫行にふけた。…しかし、彼女の裏切り者の姉妹ユダは、心を尽くしてわたしに立ち返らず、偽りをもって立ち返った、と主は言われる」（エレミヤ書 3 章 6 節、10 節、ESV）。この文脈は、イスラエルとユダが神から

離れて偶像崇拜に走り、悔い改めを求める神の呼びかけを無視したことを示しています。

- ギリシャ語（新約聖書）：

- ἀποστασία (アポスタシア): 「背教」または「反逆」を意味し、テサロニケ第二 2:3 に登場します。「だれにも、どんな方法でも、だまされないようにしなさい。まず反逆が起こり、不法の人が現れるまでは、その日は来ないからです。」(ESV 訳)。文脈としては、多くの人が真理を拒絶する終末の時代の背教が挙げられます。
- ἀφίστημι (aphistēmi): 「退く、離れる、離れる」という意味で、ルカによる福音書 8:13 「岩の上にいる者たちは…み言葉を聞くと喜んで受け入れる。しかし、彼らには根がなく、しばらくの間は信じるが、試練の時に離れてしまう」(ESV)、テモテへの手紙第一 4:1 「ある者たちは、惑わす霊と悪霊の教えに心を奪われて、信仰から離れてしまうでしょう」(ESV)、ヘブライ人への手紙 3:12 「兄弟たちよ、あなたがたの中に、生ける神から離れてしまうような、悪しき不信仰な心を持つ者がいないように気をつけなさい」(ESV) などで用いられています。

これらの用語は、聖書の文脈において、背教とは反逆であれ怠慢であれ、神から離れることであると捉えている。

2. 聖書における背教の例

聖書は背教の例を挙げ、その原因と結果を例示している。

旧約聖書の例

- イスラエルの偶像崇拜：エレミヤ書 3 章 6-10 節は、神との契約にもかかわらず偶像を崇拜したイスラエルの不信仰を描写している。「彼女は戻ってこなかった。そして、裏切り者の姉妹ユダはそれを見た」(エレミヤ書 3 章 7 節)。この文脈は、神の悔い改めの呼びかけを無視する、集団的な背教のパターンを示している。
- サウル王：サムエル記上 15 章 10-23 節で、サウルはアマレク人を滅ぼせという神の命令に背きます。「あなたが主の言葉を拒んだので、主もあなたを王位から退けられた」(サムエル記上 15 章 23 節、ESV 訳)。彼の傲慢さと不従順は、個人の背教の典型例です。
- サムソン：士師記 13 章から 16 章では、神に献身したナジル人サムソンがデリラと妥協し、誓いを破ります。「主は彼を見捨てられた」(士師記 16:20)。この失敗が彼の破滅につながります。

- ソロモン：列王記上 11 章 1-13 節には、異国の妻の影響でソロモンが偶像崇拜に陥ったことが記されている。「彼の心は、主なる神に全く忠実ではなかった」（列王記上 11 章 4 節）。これが神の裁きにつながり、王国は分裂することになる。

新約聖書の例

- ユダ・イスカリオテ：マタイによる福音書 26 章 14-16 節、27 章 3-5 節で、ユダは金のためにイエスを裏切ります。「イエスをあなたに引き渡したら、いくらくださいますか」（マタイ 26:15、ESV）。彼の貪欲さとイエスへの拒絶は、彼の背教の証です。
- デマス：テモテへの第二の手紙 4 章 10 節には、「デマスはこの世を愛して、わたしを見捨てた」（ESV 訳）とあります。彼がこの世を愛したことが、信仰を捨てる原因となったのです。
- ヨハネによる福音書 6 章 66 節の弟子たち：イエスをご自身の肉を食べることについて教えた後、「弟子たちの多くは背を向け、もはやイエスと共に歩まなくなった」（ヨハネ 6:66、ESV）ことから、彼らは難しい真理を拒否したことが分かります。
- ヘブライ人への手紙における警告：ヘブライ人への手紙 6 章 4-6 節は、「一度啓示を受けた後、信仰から離れてしまった者たちを、再び悔い改めに導くことは不可能です。なぜなら、彼らは再び神の子を十字架につけているからです」（ESV 訳）と警告しています。ヘブライ人への手紙 10 章 26-31 節には、「もし私たちが真理の知識を受けた後、故意に罪を犯し続けるなら、もはや罪のためのいけにえは残されておらず、ただ恐ろしい裁きを待つばかりです」（ESV 訳）と付け加えられています。

これらの例は、偶像崇拜、傲慢、貪欲、世俗的な欲望、あるいは真理の拒絶から生じる背教を示している。

3. 信仰から離れる人々の特徴と原因

聖書は、信仰から離れる人々の特徴と原因を明らかにしている。

特徴

- 浅薄な信仰：ルカによる福音書 8 章 13 節には、「喜びをもって（みことばを）受け入れる人々」について述べられています。「しかし、彼らには根がなく、しばらくの間は信じるが、試練の時に離れてしまう」（ESV 訳）。
- 偽善：マタイによる福音書 23 章 27-28 節では、偽善者を「白く塗られた墓…外見は美しいが、

内側は死人の骨とあらゆる汚れで満ちている」(ESV 訳)と例えています。

- 霊的な怠慢：ヘブル人への手紙 2 章 1 節は、「私たちは聞いたことにもっと注意を払わなければなりません。そうしないと、そこから離れていってしまうからです」(ESV 訳)と警告しています。
- 忍耐力の欠如：マタイによる福音書 24 章 10-12 節は、「多くの人がつまづき…不法が増えるので、多くの人の愛は冷えるでしょう」(ESV 訳)と預言しています。
- キリストの否認：ユダ 1:4 には、「不敬虔な人々は、私たちの神の恵みを放蕩に歪め、私たちの唯一の主であり救い主であるイエス・キリストを否認する」とあります (ESV)。

行動

- 悔い改めない罪：コリント人への手紙第一 5 章 11 節には、「兄弟の名を冠する者であっても、淫行や貪欲、偶像礼拝、中傷、酒飲み、詐欺などの罪を犯している者とは交際してはならない」(ESV 訳)とあります。パウロは罪を「パン種」にたとえ、「わずかなパン種が生地全体を膨らませる」(コリント人への手紙第一 5 章 6 節、ESV 訳)と述べ、「あなたがたの中から悪人を取り除きなさい」(コリント人への手紙第一 5 章 13 節、ESV 訳)と勧めています。
- 偽善と誤った教え：マタイによる福音書 15 章 8 節には、「この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている」(ESV 訳)とあります。ペトロの手紙二 2 章 1-3 節では、「偽教師たちが…ひそかに破滅的な異端を広め、…貪欲に偽りの言葉であなたがたを搾取するだろう」(ESV 訳)と警告しています。

原因

- 偽りの教え：テモテへの手紙第一 4:1-3 には、「ある人々は、欺く霊と悪霊の教えに心を奪われて、信仰から離れてしまうでしょう」(ESV)と警告されています。
- 世俗的な欲望：ヨハネの手紙第一 2:15-17 は、「世と世にあるものを愛してはなりません」(ESV)と警告しています。
- 迫害と苦難：ヘブライ人への手紙 3 章 12 節は、「悪しき不信仰な心は、あなたがたを生きる神から離れさせてしまう」と警告しています (ESV 訳)。
- 無関心と怠慢：テモテへの第二の手紙 3 章 1-5 節では、「敬虔な外見を持ちながら、その力を否定する」人々について述べています (ESV 訳)。

- 文化同化：ローマ人への手紙 12 章 2 節は、「この世の型に倣ってはならない」（ESV 訳）と勧められています。

4. 真理の霊と誤謬の霊を区別する

背教を防ぐために、聖書は真理の霊（聖霊）と誤りの霊（悪魔の影響）を区別するための基準を示しています。これらの霊的な力は、人が信仰にとどまるか、それとも信仰から離れてしまうかに影響を与えるからです。聖書本文と原典ギリシャ語に根ざしたこの区別は、キリストへの信仰と信仰の堅持において、それぞれが果たす役割を明確にしています。

聖書の根拠

- ヨハネの手紙一 4:1-6: 「愛する者たちよ、すべての霊を信じてはなりません。むしろ、それが神からのものかどうかを吟味しなさい。なぜなら、多くの偽預言者が世に出て行ったからです。神の霊は、次のことによって見分けられます。イエス・キリストが肉体をもって来られたことを告白する霊はすべて神からのものであり、イエスを告白しない霊はすべて神からのものではありません。これは反キリストの霊です。…彼らは世から来た者です。…私たちは神から来た者です。神を知る者は私たちの言うことを聞き、神から来ていない者は私たちの言うことを聞きません。これによって、真理の霊と誤りの霊を見分けることができます。」（ESV 訳）
- ヤコブ 2 章 19 節：「あなたは、神は唯一であると信じています。それは良いことです。悪霊たちでさえ信じて、震え上がっています。」（ESV 訳）
- コリント人への手紙第一 12:3：「神の霊によって語る者はだれも『イエスは呪われよ！』とは言わず、聖霊によらなければだれも『イエスは主である』と言うことはできません。」（ESV 訳）
- ヨハネによる福音書 16:13-14: 「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理へと導きます。…御霊はわたしをあげ、わたしのものを受け取ってあなたがたに告知させます。」（ESV 訳）
- マルコ 1:23-24：「汚れた霊に取りつかれた人が…叫んだ。『ナザレのイエスよ、あなたと私たちとは何の関係があるのですか。…私はあなたが誰であるかを知っています。神の聖なる方です。』」（ESV）。トマ・コリント第二 11:3-4：「蛇がその狡猾さでエバを欺いたように、あなたがたの思いも、キリストへの誠実で純粋な献身から逸れてしまうかもしれません。もし誰かが来て、私たちが宣べ伝えたイエスとは違うイエスを宣べ伝えたり、あなたがたが受けた霊とは違う霊を受けたりするなら…」（ESV）。

原文の洞察

- 霊 (πνεῦμα、プネウマ)：聖霊と悪霊の両方を指すのに用いられる (例：「汚れた霊」、πνεῦμα ἀκάθαρτον、プネウマ・アカタルトン、マルコ 1:23)。文脈によって、聖霊を指すのか悪霊の影響を指すのかが決まる。
- 真理の霊 (πνεῦμα τῆς ἀληθείας、pneuma tēs alētheias)：ヨハネ 16:13 と第一ヨハネ 4:6 では、使徒の教えと一致して、真理 (alētheia) に導く聖霊について説明されています。
- 誤謬の霊 (πνεῦμα τῆς πλάνης、pneuma tēs planēs)：ヨハネ第一 4:6 では、planē は「欺瞞」または「さまよう」を意味し、虚偽につながる悪魔の影響を示しています。
- 告白 (ὁμολογεῖ、homologeī)：同意する、または公に認めるという意味の homologeīō に由来します (1 ヨハネ 4:2)。それは、イエスの受肉 (en sarki elēlythota、「肉体となって来る」) についての心からの告白を暗示しています。
- 信じる (πιστεύεις、pisteueis)：ヤコブ 2:19 では、pisteuō から派生した語で、知的な同意を意味します。悪霊は神を認めますが、救いの信仰を持っていません。
- 主 (κύριος、kyrios)：コリント人への手紙第一 12 章 3 節では、イエスを主と告白することは、聖霊によって可能になった、イエスの神聖な権威への服従を意味します。
- 震える (φρίσσοουσιν、phrissousin)：ヤコブ 2 章 19 節では、悪霊は崇拜ではなく恐怖で震えており、これは聖霊が従順を促す働きと対照的である。

優秀賞の基準

1. イエス・キリストの告白：

- 真理の霊：聖霊は、イエスが主 (kyrios、コリント人への手紙第一 12:3) であり、肉体をもって来られた (en sarki elēlythota、ヨハネの手紙第一 4:2) という真の告白を可能にします。この告白は救いの信仰と服従を反映し、信者をキリストにしっかりと根付かせることによって背教を防ぎます (ヨハネによる福音書 15:4-5)。
- 誤りの霊：悪霊はイエスの正体 (例えば、「神の聖なる者」、マルコ 1:24) を認識しているが、イエスを主として告白しない。彼らの「信仰」(ピステウオー、ヤコブ 2:19) は知的で、信仰ではなく恐れ (フリッソウシン) に満ちており、反逆と背教 (1 テモテ 4:1) につながる。

2. 使徒的真理との一致：

- 真理の霊：信者を真理（アレーテシア）へと導き、使徒たちの教えを確証する（第一ヨハネ 4:6、ヨハネ 16:13）。これは忍耐力を強め、背教へと導く偽りの教えに対抗する（第二テサロニケ 2:3）。
- 誤りの霊：「欺瞞の霊と悪霊の教え」（1 テモテ 4:1）や「別のイエス」（allos Iēsous、2 コリント 11:4）を広め、欺瞞と信仰からの離脱へと導きます。

3. 影響の果実：

- 真理の霊：霊的な実（愛、喜び、平和、ガラテヤ 5:22-23）と善行（ヤコブ 2:17）を生み出し、信仰における忍耐を育む。
- 誤りの霊：偽教師（ペテロ第二 2:1-3）や背教者（ユダ 1:4）に見られるように、欺瞞、恐怖、罪を煽り、より悪い状態（ルカ 11:26）へと導きます。

4. 神の権威に対する応答：

- 真理の霊：イエスへの服従を促し、信者がイエスに「とどまる」（ヨハネ 15:4）ことを可能にし、背教を防ぐ。
- 誤りの霊：反逆を駆り立て、悪霊はイエスに敵対し（マルコ 1:24）、他の人々をイエスを否定するように仕向け（ユダ 1:4）、結果として背教を引き起こす。

背教との関連性

真理の霊は、ヨハネ 15:4-6 とヘブル 3:14 に見られるように、信者をイエスを告白させ、真理に沿い、敬虔な実を結び、神の権威に服従させることによって、背教を防ぎます。逆に、誤りの霊は、ユダ（マタイ 26:14-16）やデマス（テモテ第二 4:10）の例に見られるように、浅薄な信仰（ルカ 8:13）、偽りの教え（テモテ第一 4:1）、反逆（テサロニケ第二 2:3）を助長することによって、背教を促します。霊を見分けること（ヨハネ第一 4:1）は、欺瞞を避け、信仰を守り続けるために不可欠です。

反キリスト論

聖書は、反キリスト、すなわちイエス・キリストが肉体をもって来られたことを否定し、それによってキリストの受肉という真理の核心を否定する者たちがもたらす具体的な脅威について警告しています。第一ヨハネ 2章 18-19節と 4章 1-6節に記されているように、反キリストとは、かつてキリスト教共同体の一員であったが信仰から離れ、真にキリストの仲間ではなかったことを明らかにした者たちです。彼らがイエスの受肉を否定することは、真理の霊とは正反対の反キリストの霊の特徴です。ヨハネは、「イエスを告白しない霊はすべて神からのものではありません。これは反キリストの霊で

す」(第一ヨハネ 4 章 3 節)と強調しています。これらの欺瞞者たちは、人々を惑わす偽りの教を広めているため、信者は霊を見分け、使徒の真理を堅く守ることが不可欠です(ヨハネ第二 1:7:「多くの欺瞞者が世に出て行った。彼らはイエス・キリストが肉体をもって来られたことを告白しない者たちである。このような者は欺瞞者であり、反キリストである。」ESV)。

教会内に反キリストが存在することは、信仰共同体の一員に見える人々の間でも背教が起これうという現実を浮き彫りにしています。第一ヨハネ 2 章 19 節にあるように、「彼らは私たちの中から出て行ったが、彼らは私たちに属していなかった。もし彼らが私たちに属していたなら、私たちと共に留まっていたであろう。」これは、単なる所属や参加が信仰の堅固さを保証するものではないことを示しています。イエスを主と告白し、真理の御霊と一致する真の信仰だけが、揺るぎない信仰を保証するのです。

さらに、反キリストの出現は終末のしるしです。「子たちよ、今は終わりの時です。反キリストが来るという噂をあなたがたは聞いていましたが、今や多くの反キリストが現れています。ですから、私たちは終わりの時であることを知っています」(ヨハネの手紙一 2:18)。この終末論的な文脈は、信者たちに警戒を怠らず、真理にしっかりと根ざし、聖霊に頼って欺瞞を見抜き、抵抗するよう促しています。ヨハネは、「あなたがたは彼らに打ち勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方は、世にいる者よりも偉大だからです」(ヨハネの手紙一 4:4)と断言し、信者を背教から守る聖霊の力を強調しています。

5. 教会に所属していても、信仰から離れることを防ぐことはできない

聖書は、教会の一員であること(会員であること、出席すること、参加することなど)が、背教から免れることを保証するものではないと強調しています。信仰共同体との単なる関わりは、信仰の堅固さを保証するものではありません。なぜなら、悔い改めない罪、偽善、あるいはキリストにとどまらないことによって、人は依然として信仰から離れてしまう可能性があり、それはしばしば誤った霊の影響を受けてしまうからです。以下の重要な聖句がこれをよく示しています。

- ヨハネの手紙一 2:19:「彼らは私たちの中から出て行ったが、彼らは私たちに属していなかった。もし彼らが私たちに属していたなら、私たちと共に留まっていたであろう。しかし、彼らが出て行ったのは、彼らが皆私たちに属していないことが明らかになるためである。」(ESV 訳)。文脈からすると、ヨハネは教会の一員であったが教会を去った人々に向けて語りかけ、彼らの離脱は彼らが真に教会に属していなかったことを示していると述べており、教会への参加は真理の御霊に導かれた真の信仰とは同義ではないことを示唆している。

- ユダ 1:4：「ひそかに忍び込んできた者たちがいます。…不敬虔な者たちです。彼らは、私たちの神の恵みを放蕩に歪め、私たちの唯一の主であり救い主であるイエス・キリストを否定します。」(ESV 訳)。これらの背教者たちは、誤った霊に影響を受け、教会の中にいながらも信仰から離れてしまいました。これは、教会に所属していることが背教を防ぐものではないことを示しています。
- コリント人への手紙第一 5:1-2：「あなたがたの間には、淫行が行われているという報告が実際にあります。…それなのに、あなたがたは高慢です。むしろ嘆くべきではないでしょうか。」(ESV 訳)。コリント教会の中に、悔い改めない罪が共同体によって抑制されずに存在していたことは、誤りの霊が罪を助長する(テモテへの手紙第一 4:1) ため、他の人々を背教へと導く危険性がありました。
- マタイによる福音書 13:24-30、36-43 (麦と毒麦のたとえ)：イエスは、麦(真理の霊に導かれる真の信者)と毒麦(誤りの霊に影響された偽信者)が収穫まで王国で共に育ち、その時に毒麦が裁かれる様子を描写しています。「人の子は御使いを遣わし、御国から罪の原因となるものすべてと、律法を破る者すべてを集めるでしょう」(マタイ 13:41、ESV)。教会の中にいた毒麦は落ちていき、教会員であることは救いを保証するものではないことを示しています。
- ヘブル人への手紙 10 章 25-26 節：「ある人たちの習慣のように、集まることを怠らず、互いに励まし合いなさい。…もし私たちが真理の知識を受けた後、故意に罪を犯し続けるなら、もはや罪のためのいけにえは残されていないからです。」(ESV 訳)。教会で集まっている人であっても、励ましや忍耐を怠れば、特に誤りの霊の影響下では、故意の罪によって信仰から離れてしまう可能性があります。

反キリストの例は、この点をさらに明確に示しています。第一ヨハネ 2 章 19 節にあるように、反キリストはかつて教会の一員でしたが、教会を離れました。これは、彼らが真の信仰者ではなかったことを示しています。彼らの離脱は、教会への参加だけでは背教を防ぐことはできないことを明らかにしています。真の信者を区別するのは、キリストへの真の信仰告白と真理への忍耐なのです。反キリストの霊は教会に忍び込み、真理の霊によって対抗されなければ、欺瞞と信仰からの離脱へと導く可能性があります。

6. 「人の中に宿る七つの霊」

ルカによる福音書 11 章 24-26 節とマタイによる福音書 12 章 43-45 節におけるイエスの教えは、不完全な悔い改めの危険性を示している。

- 「汚れた霊が人から出て行くと、家が掃除され、整えられているのを見つける。それから出て行って、自分よりも悪い七つの霊を連れてくる。…こうして、その人の最後の状態は最初の状態よりも悪くなる。」(ルカによる福音書 11:24-26、ESV)

文脈上(ルカ 11:14-28)、これはイエスが教えた霊的戦いとイエスへの忠誠に続くものです。それは次のような警告を発しています。

- 不完全な悔い改め：罪を清めるだけでは、真理の御霊で人生を満たすことができず、誤りの霊や悪魔の影響力に対して脆弱なままになってしまう。
- 悪化した状態：誤った精神に駆り立てられて罪に逆戻りすると、状況はさらに悪化し、背教の結果を増幅させる。
- 背教との関連：このたとえ話は、真理を受け入れた後に罪に逆戻りし、誤りの霊に同調することの危険性を示しています(第一ヨハネ 4:6)。

これは、箴言 26 章 11 節を引用したペテロ第二 2 章 20-22 節と一致しており、「自分の吐いた物に戻る犬のように、愚か者は自分の愚かさを繰り返す」(ESV 訳)と述べ、「彼らの最後の状態は最初の状態よりも悪くなった」(ペテロ第二 2 章 20 節、ESV 訳)と警告している。

7. ユダの手紙からの洞察

ユダは、誤りの精神に影響された背教者たちについて警告している。

- 「ひそかに忍び込んできた者たちがいます。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放蕩に歪め、私たちの唯一の主であり救い主であるイエス・キリストを否定する者たちです。」(ユダ 1:4、ESV)

彼らの特徴は以下の通りです。

- 「あなたがたの愛餐の隠れた岩礁…水のない雲…晩秋に実を結ばない木々、二度死んで根こそぎにされた木々。荒れ狂う海の波…さまよう星々、彼らのために永遠の暗闇が用意されている。」(ユダ 1:12-13、ESV)

ユダは、「最も聖なる信仰によって自分自身を築き上げなさい…神の愛のうちに自分自身を保ちなさい」(ユダ 1:20-21、ESV)と勧め、迷っている人々に憐れみを示しなさい(ユダ 1:22-23)と述べ、背教を防ぐために真理の御霊に頼ることを強調している。

8. コリントの信徒への手紙一 5 章とマタイによる福音書 15-16 章からの洞察

- コリント人への手紙第一 5 章：パウロはコリント教会内の性的不道徳について論じ、悔い改めない罪人を排除するよう促しています。「あなたがたの中から悪人を追い出さない」（コリント人への手紙第一 5:13）。彼は墮落させる罪を列挙しています。「淫らな者、貪欲な者、偶像礼拝者、人をそしめる者、酒飲み、詐欺師」（コリント人への手紙第一 5:11）。パウロは罪を「パン種」にたとえています。「わずかなパン種が生地全体を膨らませる」（コリント人への手紙第一 5:6）。文脈上、これらの罪は誤りの霊（テモテへの手紙第一 4:1）の影響を受けており、対処しなければ、真理の霊が聖潔へと呼びかける（エペソ人への手紙 4:30）ことと相容れないため、共同体を背教へと導く危険性があります。
- マタイによる福音書 15～16 章：イエスは偽善と誤った教えについて語り、それらは誤りの精神と一致し、背教につながると述べている。
 - 偽善：マタイによる福音書 15 章 7-9 節で、イエスはイザヤ書を引用してパリサイ人を非難しています。「この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らはむなしくわたしを礼拝し、人間の戒めを教えとして教えている」（ESV 訳）。文脈（マタイによる福音書 15 章 1-20 節）からすると、彼らの表面的な信仰は、誤った精神に影響された心を覆い隠し、背教の危険を冒しているのです。
 - 偽教師：マタイによる福音書 15 章 13-14 節には、「わたしの天の父がお植えになったのではない植物はすべて、根こそぎ抜かれるでしょう。彼らを放っておいてください。彼らは盲人の案内人です。盲人が盲人を案内するなら、両方とも穴に落ちるでしょう」（ESV 訳）とあります。偽教師は、誤りの霊に駆り立てられ、欺瞞を広め、背教へと導きます（コリントの信徒への手紙二 11 章 4 節）。
 - 真の弟子となるための呼びかけ：マタイによる福音書 16 章 24-26 節で、イエスはこう教えています。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負ってわたしに従いなさい。自分の命を救おうとする者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者はそれを見いだすからです。」（ESV 訳）。真理の御霊によって力づけられたこの従順への呼びかけは、誤りの霊の影響力に対抗するものです。

9. 王国のたとえ話とその関連性

イエスのたとえ話は、しばしば誤った精神によって引き起こされる、信仰からの離脱の結果を強調している。

- 種まきのたとえ（マタイによる福音書 13:1-23）：岩地に蒔かれた種は、試練の中で落ちてしまう（マタイによる福音書 13:20-21）。真理の御霊の導きが欠けているからである。
- 麦と毒麦のたとえ（マタイによる福音書 13:24-30、36-43）：誤った霊に影響された偽信者は裁かれる。
- 十人の乙女のたとえ（マタイによる福音書 25:1-13）：準備のできていない、聖霊の臨在を欠く乙女たちは除外される。
- タラントのたとえ（マタイによる福音書 25:14-30）：不忠実な僕が聖霊の力を拒絶したため、追放される。

10. 王国に入らない者たち

聖書は、しばしば誤謬の霊の影響によって排除された人々を特定している。

- ヨハネの黙示録 21 章 8 節：「臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、殺人者、淫行を行う者、魔術を行う者、偶像礼拝者、そしてすべての偽り者、彼らの受ける分は、火と硫黄で燃える湖の中である」（ESV 訳）。
- マタイによる福音書 7:21-23：「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、わたしの父の御心を行う者だけが入るのです。」（ESV 訳）
- コリント人への手紙第一 6:9-10：「淫行を行う者、偶像礼拝者、姦淫を行う者、男色を行う者、盗人、貪欲な者、酒に酔う者、人をそしめる者、詐欺師は、神の国を受け継ぐことはできません。」（ESV 訳）
- ガラテヤ人への手紙 5:19-21：「肉の行いは明らかです。それは、淫行、不潔、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、ねたみ、怒り、利己心、分裂、分派、嫉妬、泥酔、宴会、その他これらに類するものです。以前にも警告したように、もう一度警告します。このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。」（ESV 訳）

11. 永遠の救いに関する神学的議論：分析と批判

永遠の救いの保証、すなわち真の信者は救いを失うことがないという教義をめぐる議論は、正しい教えとイエスの教えに適切に従うという文脈の中で理解されなければならない、背教に対する警告と整合させる必要がある。誤った適用は自己満足を招き、これらの警告を損なう可能性がある。本分析は、ヨハネによる福音書 10 章 27-29 節の「イエスの声を聞く羊」の文脈を明確にし、積極的な従順を強調するとともに、文脈に照らして検証された聖書のみを用いて、背教に対する警告との明らかな矛盾を解決する。

概要

- 定義と約束：永遠の救いとは、真に救われた者は神の力によって守られるというものです。ヨハネによる福音書 10 章 27-29 節には、「わたしの羊はわたしの声を聞き、わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従います。わたしは彼らに永遠の命を与えます。彼らは決して滅びることはなく、だれもわたしの手から彼らを奪い取ることはできません。彼らをわたしに与えてくださったわたしの父は、すべての人よりも偉大であり、だれも父の手から彼らを奪い取ることはできません」(ESV 訳)とあります。ローマ人への手紙 8 章 38-39 節には、「死も生も…私たちが神の愛から引き離すことはできません」(ESV 訳)とあります。ピリピ人への手紙 1 章 6 節には、「あなたがたのうちに良い働きを始められた方が、それを完成させてくださる」(ESV 訳)とあります。
- ヨハネによる福音書 10 章 27-29 節の文脈：ヨハネによる福音書 10 章 1-30 節で、イエスはご自身の真の羊と、ご自身を拒絶する者たち（例えば、パリサイ人）を対比させています。永遠の救いを受ける「羊」とは、次のような人々です。
 - 彼の声を聞きなさい：ギリシャ語の ἀκούω (akouō) は、ヨハネ 8:47（「神に属する者は神の言葉を聞く」ESV）やヨハネ 14:23（「わたしを愛する者はわたしの言葉を守る」ESV）に見られるように、従う意図をもって注意深く聞くことを意味します。
 - 彼に従いなさい：ギリシャ語の ἀκολουθέω (akolouthēō) は、マタイによる福音書 16 章 24 節（「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負ってわたしに従いなさい」）にあるように、積極的で継続的な従順を意味します。したがって、永遠の救いは、真理の御霊に導かれ、イエスに積極的に耳を傾け、従い、真の信仰にふさわしい実を結ぶ人々（マタイによる福音書 7 章 16-20 節）に当てはまります。
- 相反する警告：ヘブライ人への手紙 6 章 4-6 節は、「一度光を受けた者が…その後、信仰から

離れてしまった場合、彼らを再び悔い改めに導くことは不可能です」(ESV 訳)と警告しています。また、ヘブライ人への手紙 10 章 26-31 節は、「もし私たちが故意に罪を犯し続けるなら…もはや罪のためのいけにえは残されていません」(ESV 訳)と述べています。これらは、信仰から離れる可能性があることを示唆しており、見かけ上の緊張関係を生み出し、しばしば誤謬の霊によって利用されます。

緊張を解消する

ヨハネによる福音書 10 章 27-29 節にある永遠の救いの約束は、イエスの真の羊、すなわち真理の御霊によって力を与えられ、信仰と従順を通してイエスの言葉を聞き従う者たちに当てはまります。背教の警告は、キリストにとどまらない者たちに向けられており、彼らが真の羊ではなく、しばしば誤りの霊に影響されていることを明らかにしています。要点：

- 真の信者は忍耐する：ヨハネ 15:4-6 には、「わたしにとどまりなさい。そうすれば、わたしもあなたがたにとどまります。…わたしにとどまらない者は、枝のように投げ捨てられて枯れてしまいます」(ESV)とあります。とどまるには従順が必要であり、これはヨハネ 10:27 の「従う」ことと一致します。ヘブル 3:14 には、「もし私たちが最初の確信を最後までしっかりと保つならば、私たちはキリストにあずかることとなります」(ESV)とあります。真の羊は忍耐を示し、神の御霊が彼らに印を押します(エペソ 1:13-14)。
- 背教者は真の羊ではなかった：第一ヨハネ 2 章 19 節には、「彼らは私たちから出て行ったが、彼らは私たちに属していなかった。もし彼らが私たちに属していたなら、私たちと共に留まっていたであろう」(ESV 訳)とある。ユダ(マタイ 26:14-16)、デマス(第二テモテ 4:10)、ヨハネ 6:66 の弟子たちの例は、背教した者たちがイエスの言葉を聞き従い続けたのではなく、真の羊ではなく、しばしば誤りの霊に惑わされていたことを示している。
- 警告は忠実さを促します。ヘブライ人への手紙 6 章 4-6 節、10 章 26-31 節、ペテロの手紙第二 2 章 20-22 節(箴言 26 章 11 節を引用)は、浅薄な信仰、悔い改めない罪、あるいは再犯(例えば、ルカによる福音書 11 章 24-26 節の「七つの霊」)に対して警告を発しています。これらは、コリント人への手紙第一 10 章 12 節にあるように、「立っていると思う者はだれでも、倒れないように気をつけなさい」(ESV 訳)というように、信者が自己満足に陥らないように、そして真理の御霊に頼るよう促しています。

誤用に対する批判

永遠の救いを浅い信仰や偽りの信仰を持つ人々(例えば、ルカ 8:13、ユダ 1:4)に誤って適用することは、誤りの霊に影響され、自己満足を助長し、背教に対する警告を損なう危険性があります。救い

を主張しながらも悔い改めない罪（第一コリント 5:11）や偽善（マタイ 15:8）に生きる人々は、ヨハネ 10:27 の基準を満たしていません。彼らはイエスの言葉を聞き、イエスに従っていないのです。ローマ 6:1-2 は、「恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。決してそうではありません！」（ESV）と反論しています。正しい教えは、永遠の救いはキリストにとどまり、実を結ぶ人々（マタイ 7:16-20）のためのものであり、真理の霊に導かれ、イエスの従順への呼びかけ（マタイ 16:24、テトス 2:11-12）と一致することを強調しています。

12. 希望と回復

聖書は希望を与えてくれる。

- 神の願い：テモテへの手紙第一 2:4：神は「すべての人が救われることを望んでおられる」（ESV 訳）。ペテロの手紙第二 3:9：神は「だれも滅びることを望んでおられない」（ESV 訳）。
- 回復：ルカ 15:11-32（放蕩息子）：息子の帰還は、神が回復させようとする意志を示している。ヨハネ 21:15-19（ペテロ）：イエスはペテロが否認した後に彼を回復させる。コリント第二 2:5-11（コリントの罪人）：パウロは悔い改めた罪人を回復させるために赦しを勧める。
- 忍耐：ヨハネ 15:4-6：キリストにとどまることは実りをもたらします。ヘブル 3:13：「毎日互いに励まし合いなさい。そうすれば、あなたがたのだれも罪の欺きによって心が頑なになることがないでしょう。」（ESV 訳）。ユダ 1:20-23：信仰を築き、憐れみを示すことは、信者が真理の御霊を通して忍耐する助けとなります。

13. その他の考察

- 終わりの日の背教：テサロニケ第二 2:3 は、主の日の前に、誤りの霊に影響された広範な背教が起こることを警告しています。
- 偽教師：ペテロ第二 2:1-3 とユダ 1:4 は、彼らが誤りの霊によって人々を惑わす役割を強調しています。
- 教会の規律：マタイによる福音書 18 章 15-17 節は、罪に対処し、教会の純粋さを守るための手順を概説しています。
- 歴史的背景：ユダヤ主義者（ガラテヤ 1:6-9）やグノーシス主義（第一ヨハネ 2:18-19）のような脅威は、背教の蔓延を浮き彫りにし、それはしばしば誤謬の精神と結びついている。

- 文化的圧力：世俗的な価値観に同化することは背教のリスクを伴います（ローマ人への手紙 12 章 2 節）。
- 聖霊の役割：エペソ 4 章 30 節は、信者に印を押す真理の御霊を悲しませないようにと警告しています。
- 追加の警告：
 - コロサイ人への手紙 2 章 8 節：哲学と欺瞞、しばしば誤謬の霊によって広められるものに対して警告している。
 - テモテへの第二の手紙 2 章 18 節：真理から逸れる者たちを非難している。
 - 黙示録 3 章 5 節：勝利する者の名は消し去られることはないという約束であり、真理の御霊を通して忍耐することの重要性を強調している。
- 反キリストと終末論：反キリストの出現は終末と結びついており、第一ヨハネ 2 章 18 節と第二テサロニケ 2 章 3-4 節には、神に敵対する「不法の者」が描かれています。この関連性は、キリストの再臨前に背教と欺瞞が増大する中で、識別力と信仰心の必要性を強調しています。

14. 要約表

通路	テーマ	重要な洞察
エレミヤ書 3:6-10	イスラエルの偶像崇拜	偶像崇拜による集団的背教。
サムエル記上 15:10-23	サウルの不従順	傲慢さによる個人の背教。
マタイによる福音書 26:14-16	ユダの裏切り	貪欲さによって引き起こされた背教。
ヘブライ人への手紙 6:4-6、10:26-31	悟りの後の拒絶	信仰から離れると、深刻な結果を招く。
コリント人への手紙第一 5:6-8、11	罪の酵母	罪は、誤った精神に影響されて人を堕落させるため、取り除く必要がある。
マタイによる福音書 15:8、23:27-28	偽善	外面的な正義は、誤りの精神に駆り立てられた内なる罪を覆い隠す。
ユダ 1:4-13	偽教師と背教者	欺瞞的で破滅的であり、真理の御霊に頼るよう促す。

通路	テーマ	重要な洞察
ルカによる福音書 11:24-26	セブン・スピリッツ	不完全な悔い改めは、誤った精神の下でさらに悪い状態へと導く。
マタイによる福音書 13:1-23	種まきのたとえ	浅薄な信仰は、真理の御霊なしには信仰から離れてしまうことにつながる。
ヨハネの黙示録 21:8 ペテロ第二 2:20-22、 箴言 26:11	王国からの追放 罪への回帰	悔い改めない罪人は王国から追放される。 再発は、誤った精神状態にある人の状態を悪化させる。
ヨハネの手紙一 2:19	教会会員	教会に所属しているだけでは、真理の御霊なしに背教を防ぐことはできない。
ヨハネの手紙一 4:1-6	真理の精神 vs. 誤り	霊を見分けることで、聖霊の導きと悪魔の欺瞞を区別することができる。
ヨハネの手紙一 2:18-19、4:1-6、ヨハ ネの手紙二 1:7	反キリスト	キリストの受肉を否定する者、教会内の欺瞞者、 終末の兆候。

15. 結論

背教は、メシュヴァとアポスタシアによって定義され、イスラエル、サウル、ユダ、反キリストに代表されるように、反逆、怠慢、または欺瞞によって神から離れることを指します。真理の霊（聖霊）は、イエスを主と告白し、真理に一致し、敬虔な実を結び、神に服従することを可能にすることによって背教を防ぎますが、誤りの霊（悪魔の影響）は、欺瞞、浅薄な信仰、反逆によって背教を助長します。背教者の特徴には、偽善と、キリストの受肉を否定する反キリストが広めるような偽りの教えに陥りやすいことが含まれます。コリント人への手紙第一 5 章にあるような行動は、腐敗させるパン種として働き、反キリストに見られるように、教会においても背教を防ぐことはできません（ヨハネの手紙第一 2 章 19 節）。「七つの霊」と犬が自分の吐いた物に戻る話は、背教の危険性を示しており、ユダの手紙と王国のたとえ話は裁きを警告しています。反キリストを含む偽教師たちは、欺瞞を広めることで背教を悪化させます。悔い改めない罪人は神の王国から排除されますが、神が悔い改めを望んでおられることは希望を与えます。永遠の救いは、正しい教えに根ざし、イエスの教えに正しく従うことによって、真理の御霊を通して忍耐を強めますが、誤った適用は自己満足を招く恐れがあります。信者は霊を見分け（第一ヨハネ 4:1）、キリストにとどまり、特に反キリストの欺瞞に直面した時

こそ、神の贖いの愛を信頼しなければなりません。